

令和 7 年度

全国学力・学習状況調査の結果（概況）

I 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

II 調査実施日

- ・令和 7 年 4 月 1 7 日（木）

III 調査の対象学年

- ・小学校第 6 学年、中学校第 3 学年

IV 調査の内容

- 1 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 2 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ①児童生徒に対する調査
 - ②学校に対する調査

むかわ町教育委員会

令和 7 年 1 0 月

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

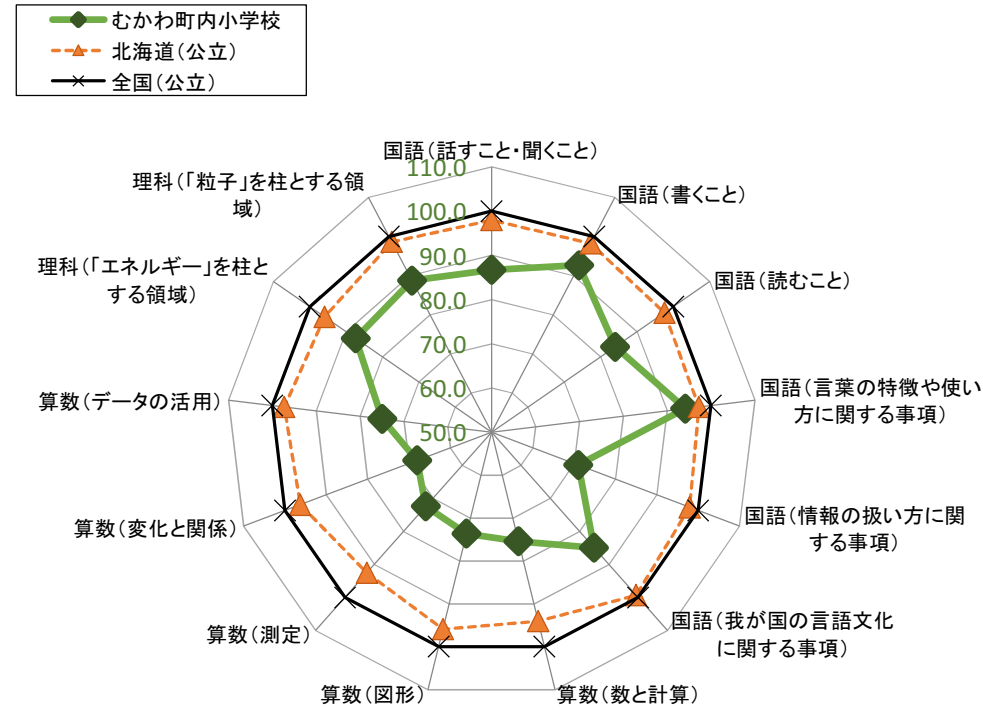
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

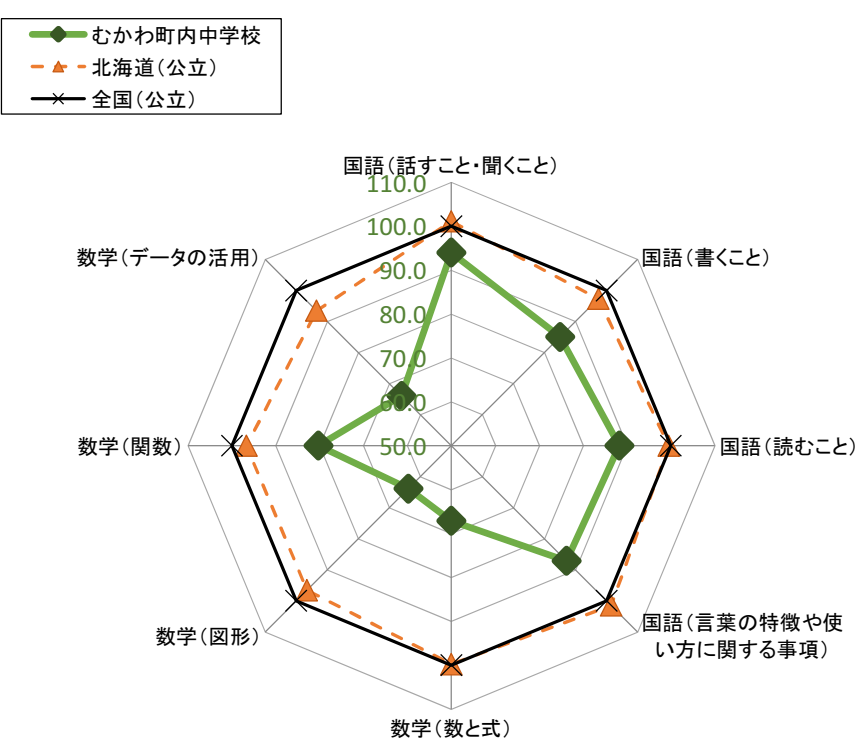
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
むかわ町	58	44	49	48	33	486
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校



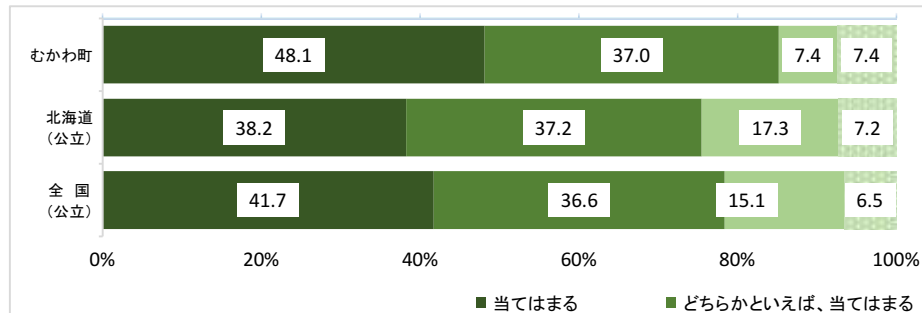
中学校



小学校

<児童質問>

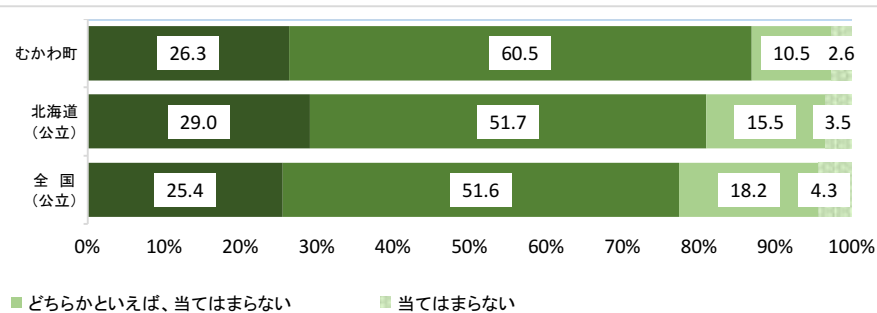
算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校

<生徒質問>

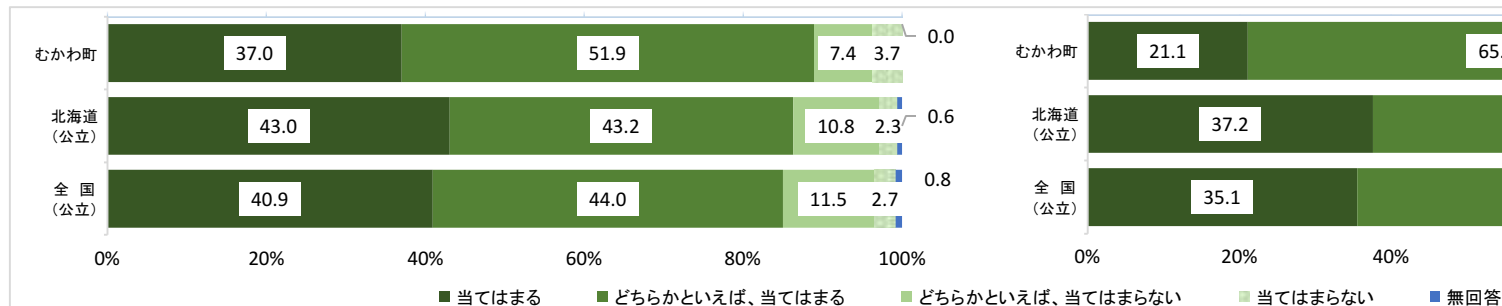
国語の授業の内容はよく分かりますか



小学校

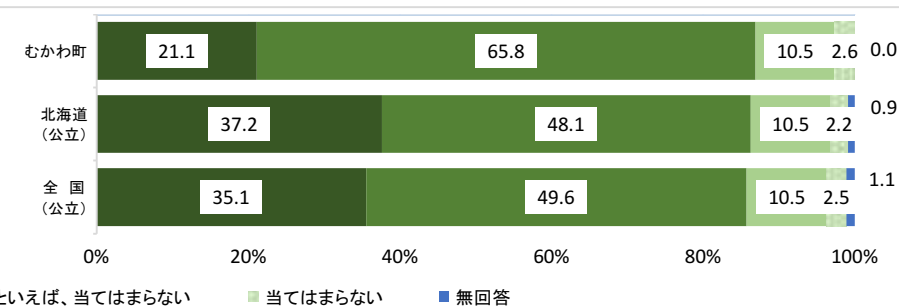
<児童質問>

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



中学校

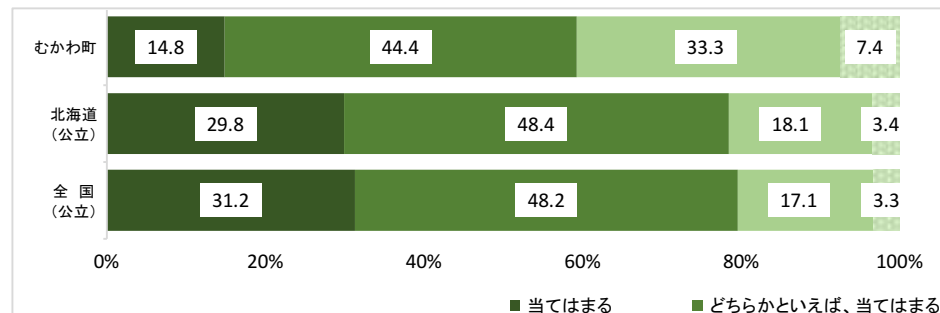
<生徒質問>



小学校

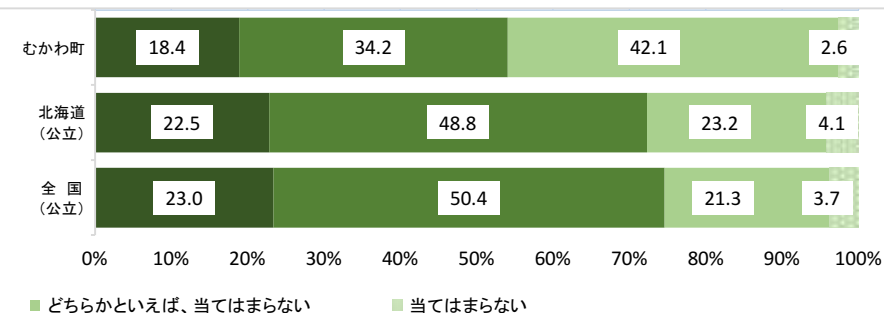
<児童質問>

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



中学校

<生徒質問>



○ 結果チャート

小学校

〔教科を中心とした学力・学習状況〕

(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

(全国基準)



＜令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	算数の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	算数に関する意識	(46)(48)～(51)
8	理科に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	算数の学習活動	(54)(57)～(59)
10	理科の学習活動	(60)(61)(63)～(65)
11	理科の学習活動	(62)(66)～(70)

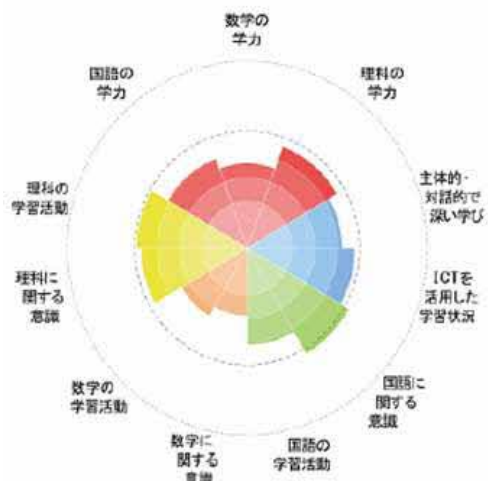
＜令和7年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)～(43)
13	生活習慣	(1)～(3)
14	学習習慣	(17)(19)
15	読書等	(21)～(24)
16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
17	向社会性	(8)(9)(11)(27)
18	主体的な学習の調整	(16)(36)

中学校

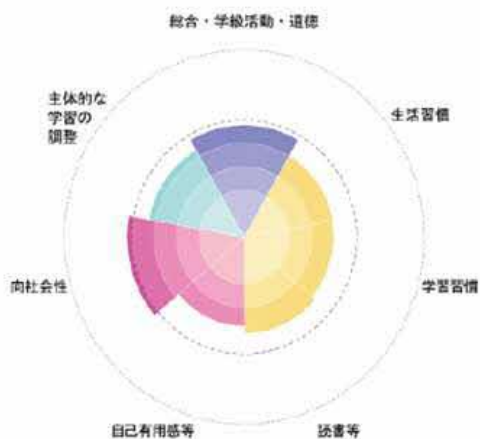
〔教科を中心とした学力・学習状況〕

(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

(全国基準)



＜令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

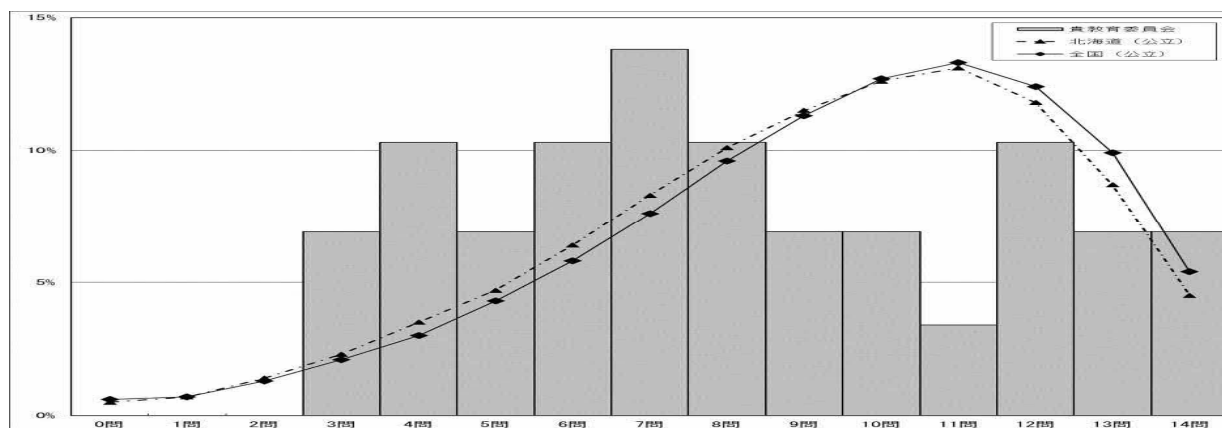
領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	数学の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	数学に関する意識	(46)(48)～(51)
8	理科に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	数学の学習活動	(54)(57)～(59)
10	理科の学習活動	(60)(61)(63)～(65)
11	理科の学習活動	(62)(67)～(70)

＜令和7年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

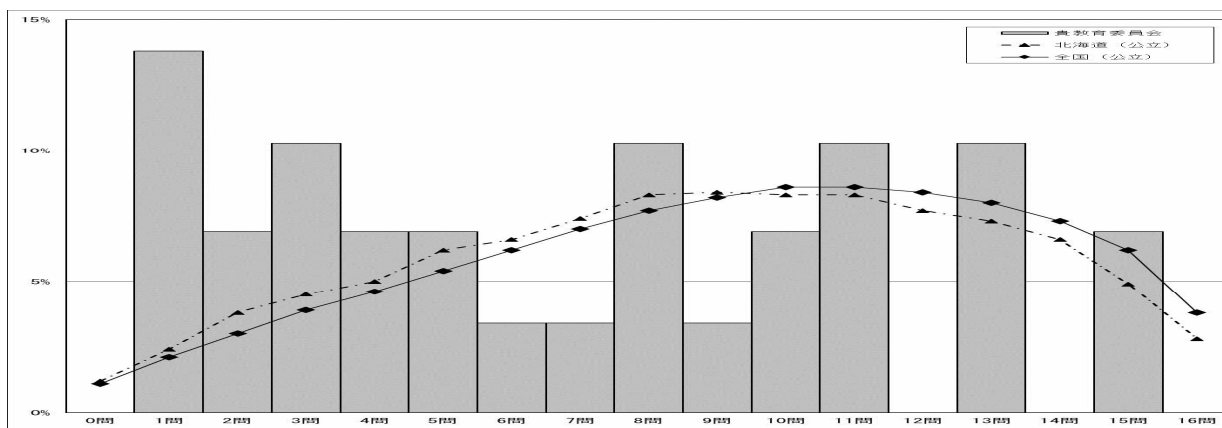
領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)～(43)
13	生活習慣	(1)～(3)
14	学習習慣	(17)(19)
15	読書等	(21)～(24)
16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
17	向社会性	(8)(9)(11)(27)
18	主体的な学習の調整	(16)(36)

○ 正答数分布グラフ・IRTバンド分布グラフ

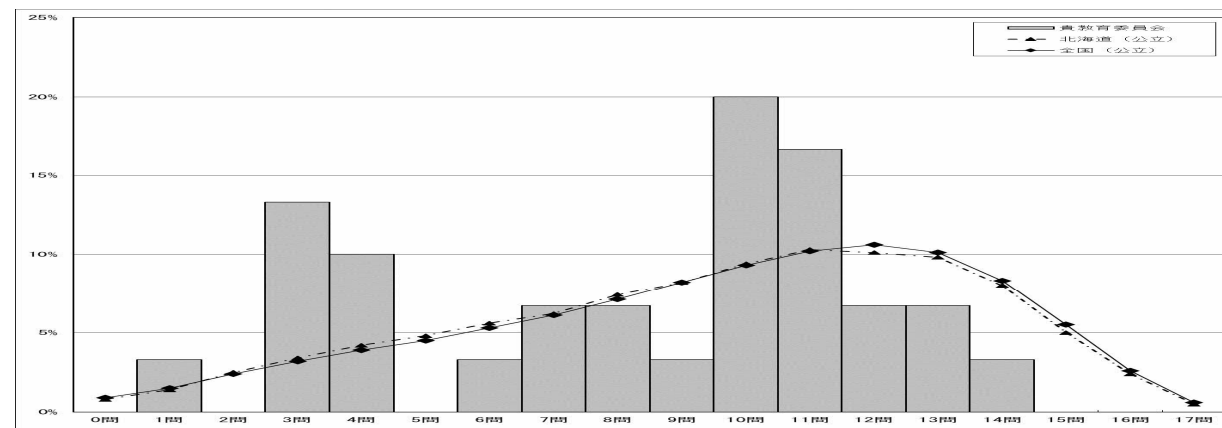
<小学校国語>



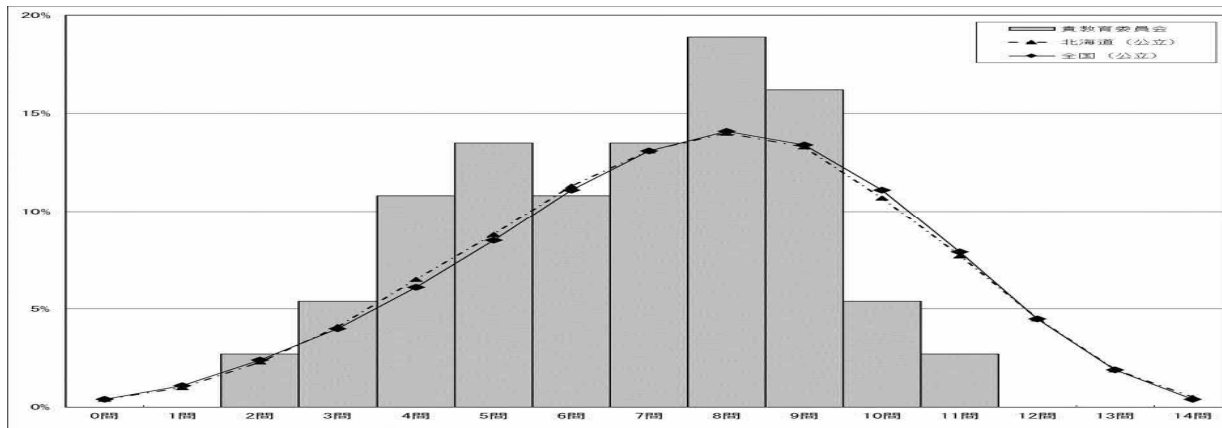
<小学校算数>



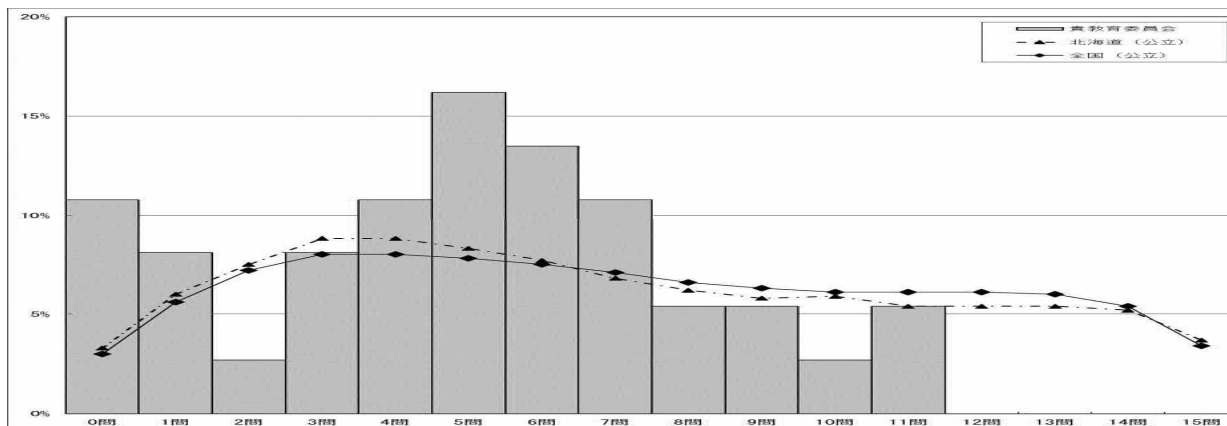
<小学校理科>



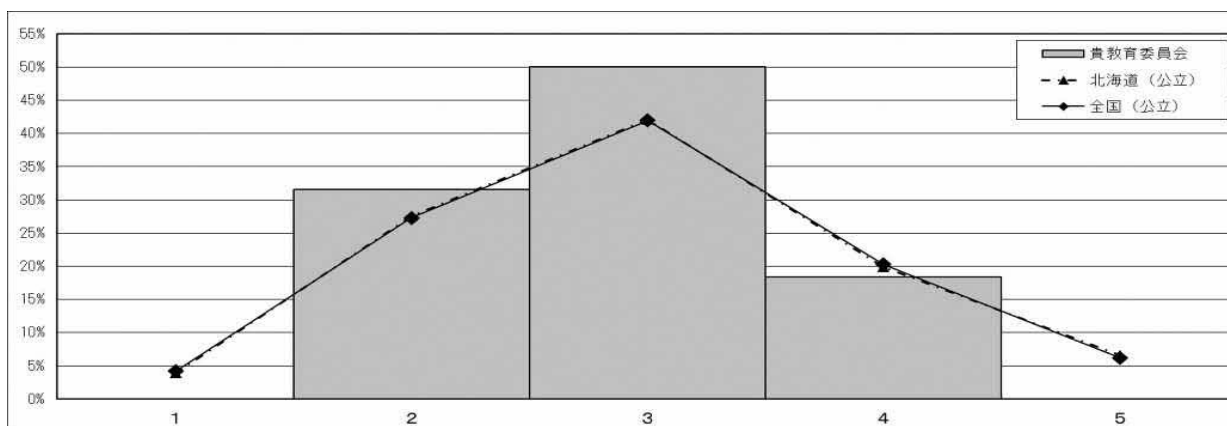
<中学校国語>



<中学校数学>



<中学校理科> ※IRTバンド分布グラフ



【考察】

◆小学校

○「平均正答率」では、国語・算数・理科のいずれも、全国より低い結果となっている。
 ○「領域別」では、すべての教科・領域において、全国より低い結果となった。特に、算数の「変化と関係」が大きく下回っている。
 ○「正答数分布グラフ」では、
 ・国語は、上位層が少なく、下位層が多い。
 ・算数は、上位層から中位層が少なく、下位層が多い。
 ・理科は、上位層が少なく、中位層が多い。
 ○「レーダーチャート」では、「教科に関する意識や学習活動に関する項目」は全国よりも高い。学習に意欲的な児童は多いが、学力は低い、という傾向にあるといえる。

◆児童質問

○「算数の授業がよく分かる」と回答した割合が全国より高い。算数専科や複数教員による指導・支援の効果の現れと考察できる。
 ○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した割合が全国より高い。児童の学びが深まるように授業に「協働的な学び」となる場面を位置付ける等、授業づくりの工夫の成果と考察できる。
 ○一方、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した割合が全国より低い。学習の「振り返り」に課題があると考察できる。

◆中学校

○「平均正答率」では、国語・数学は全国よりも低く、理科は若干低い結果となっている。
 ○「領域別」では、すべての教科・領域において、全国より低い結果となった。特に、数学の「数と計算」「図形」「データの活用」の項目が大きく下回っている。
 ○「正答数分布グラフ」では、
 ・国語は、上位層が少なく、中位層から下位層にかけて多い。
 ・数学は、上位層が少なく、下位層が多い。
 ・理科は、全国とほぼ同等の分布となっている。
 ○「レーダーチャート」から、「国語・理科に関する意識や学習活動の項目」は全国と同等である一方、「数学に関する項目」は全国より低い傾向にある。数学の学習への意欲に課題を抱える生徒が多い傾向にあるといえる。

◆生徒質問

○「数学の授業がよく分かる」と回答した生徒の割合が全国より低くなり、「国語の授業がよく分かる」と回答した割合が全国より高い。
 ○小学校同様、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した割合が全国より高い。「協働的な学び」の場面に授業に位置付けることにより、学びが深まっていると考察できる。
 ○小学校同様、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した割合が全国より低い。学習の「振り返り」に課題があると考察できる。

【本町の取組と今後の取組について】

むかわ町では、学校と教育委員会が連携し、次の3つのベクトルから学力向上の取組を推進しています。

- 授業改善を中心とした「校内方向のベクトル」
- 小中連携を中心とした「縦方向のベクトル」
- 家庭・地域との連携を中心とした「横の方向のベクトル」

具体的には、「むかわ町教育推進委員会」を組織し、以下の取組を推進しています。

- ①教職員研修
 - ・町内小・中学校の教職員を対象にした「むかわ町教職員研修会」を実施
 - ・町内小・中学校の代表による「道外視察研修」の実施

- ②学力向上の取組
 - ・各校の学力向上担当者で組織する「町学力向上部会」を設置
 - ・各校の学力向上の取組（授業改善、小中連携、家庭学習等）
 - ・全国学力・学習状況調査、標準学力検査（CRT）の結果分析

- ③ICTの効果的な活用に関する取組
 - ・各校のICT担当者で組織する「ICT教育推進部会」を設置
 - ・ICTを積極的・効果的な活用を目指した授業の交流、協議
 - ・各校のICTの活用に関する取組の交流

- ④家庭と連携した取組
 - ・小中連携した家庭学習の取組の推進（年3回程度）
 - ・「家庭学習の手引き」の発行

- ⑤ その他
 - ・よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート「Hyper QU」の実施
 - ・9年間見通した「学習・生活規律」の確立
 - ・各種検定料の補助（漢字検定、英語検定、算数・数学検定等）

この他に、教育委員会では
 ・各校に児童生徒の学習を支援する学習支援員等の配置
 ・「少年の主張大会」「読書感想文コンクール」「ジュニアチャレンジ合宿」等の実施など、学校と連携しながら、児童生徒の学習環境の整備に努めています。

引き続き、学力向上を図る本町の取組である3つのベクトル（校内・縦・横）を、学校・家庭・地域・教育委員会が連携しながら進め、取組の充実を図ってまいります。
 学校と家庭・地域との連携はますます重要となります。児童生徒の規則正しい生活習慣や望ましい学習習慣の定着のための環境整備に努めるとともに、学校運営協議会をはじめとする地域とのかかわりを大切にしていきたいです。
 加えて、学校の働き方改革を進め、教育活動の質の向上を図るとともに、1人1台端末の積極的・効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善を推進してまいります。